

大内白鳥バイパス伊座地区構造等検討委員会 概 要

1. 日 時 令和5年3月23日（木） 16:00～17:00

2. 場 所 香川河川国道事務所 2F 第1・2会議室

3. 委 員

香川大学副学長/創造工学部 教授	吉田 秀典
香川大学創造工学部 教授	山中 稔
四国地方整備局道路情報管理官	片岡 浩史
四国地方整備局香川河川国道事務所長	黒木 賢二郎

4. 議 事

(1) 大内白鳥バイパス伊座地区構造等検討（案）について

5. 結果概要

- ・道路構造（案）などについて了承を得た。
- ・なお、新たに設置する観測孔の設置位置は、令和5年度の豊水期に行う流向調査等を踏まえて判断する。
- ・また、施工後2年間のモニタリングは、モニタリングの状況や施工による影響を踏まえつつ、必要に応じて委員の意見を頂きながら判断することとする。

道路構造(案)

■地質調査結果を踏まえて、工法ごとの比較検討を実施。

	第 1 案 従来工法(プレキャストL型擁壁)	第 2 案 プレキャストL型擁壁+軽量盛土	第 3 案 補強土壁工法
概要図			
概要	裏込め土C2では支持力不足のため置換基礎で支持力確保	掘削低減のため、置換えが不要となる軽量盛土を採用	支持地盤への影響を考慮し、地盤反力の小さい補強土壁で対応
環境性	× 廃棄物混じり土の掘削大	○ 廃棄物混じり土の掘削小	○ 廃棄物混じり土の掘削小
施工性	△ 掘削量が多く施工中の地下水処理量が多い	○ 掘削量が少なく施工性に優れる	△ プレキャストL型擁壁に比べ施工工数が多く工程上不利
経済性	× 廃棄物混じり土の処分土量が多く施工費が高額	○ 廃棄物混じり土の処分土量が少なく施工費が安価	△ 廃棄物混じり土の処分土量が少ないが、施工費は第2案より高価

○経済性、周辺への影響の最も少ない第2案で事業を進める

各土壌に対する対応(案)

■比較選定した道路構造にあわせ、法令に基づき下表の通り対応する。

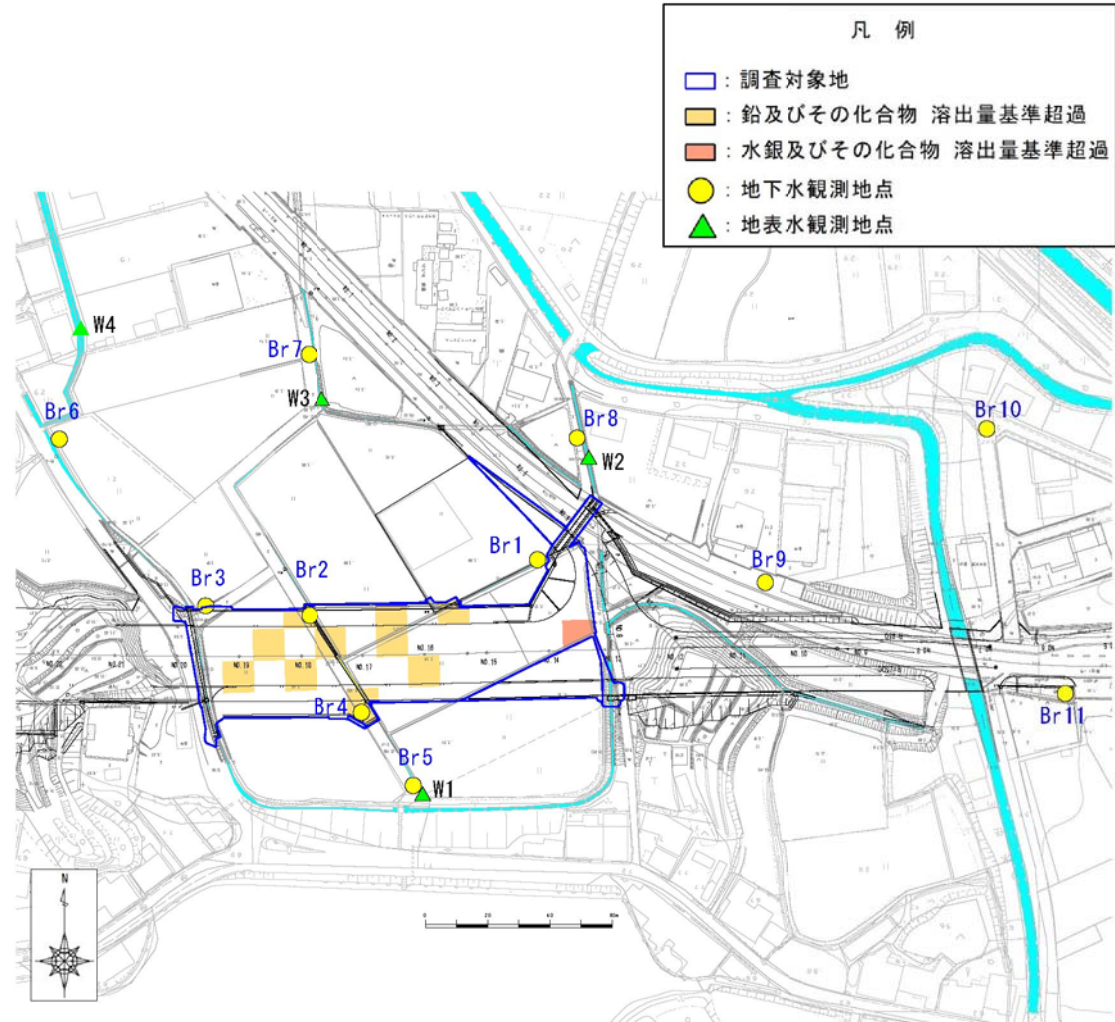
		地盤性状等	対応方針
表土	形質変更時 要届出区域 (耕作土・盛土)	<ul style="list-style-type: none"> ・表土は耕作土が分布し、その下部に砂礫土の盛土が分布する。 ・耕作土は腐植～分解有機質土の圃場耕作土である。 ・盛土はマサ土主体で転圧されてよく締まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形質変更時要届出区域内の盛土等に流用。
	形質変更時 要届出区域 以外	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の土壌として取扱う。 「土壤汚染対策法」第4条1項に基づく、 届出を行う。
廃棄物 混じり土層		<ul style="list-style-type: none"> ・H30.5埋蔵文化財調査中に廃棄物混じり土を発見。 ・ガラス等の混入を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事により掘削した範囲は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき適切に処分。
廃棄物混じり土直下土壌	形質変更時 要届出区域 (土壤汚染 対策法対象土)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物混じり土層下部の砂礫質土層。 ・連続的に分布し、一部シルト分が優勢となる。 「深度調査により、対象土壌を特定」	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削等、影響しない構造とする。
	形質変更時 要届出区域 以外	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物混じり土層下部の砂礫質土層。 ・連続的に分布し、一部シルト分が優勢となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の土壌として取扱う。 「土壤汚染対策法」第4条1項に基づく、 届出を行う。

モニタリング計画(案)

- 施工に伴う周辺への影響を監視する目的で、施工前・施工中・施工後のモニタリングを計画。
- 施工中の測定結果に大きな変動が生じた場合、工事を一時中断し、要因を確認した上で再開する。

モニタリング実施計画一覧表

項目	測定項目	測定頻度	測定位置	測定期間
施工前	地表水 ・鉛及びその化合物 ・水銀及びその化合物 ・ふっ素及びその化合物 ・ダイオキシン類 ・農業用水項目	4回/年	W1、W2 W3、W4	施工開始前 1年間
	地下水 ・鉛及びその化合物 ・水銀及びその化合物 ・ふっ素及びその化合物 ・農業用水項目 ・地下水位	4回/年	Br1、Br2、Br3 Br4、Br5、Br6 Br7、Br8、Br9 Br10、Br11	
施工時	地表水 ・鉛及びその化合物 ・水銀及びその化合物 ・ふっ素及びその化合物 ・ダイオキシン類	濁度が認められた時	濁度が認められた地点	施工期間中
	・農業用水項目	2回/年	W1、W2 W3、W4	
	一時貯留水 ・鉛及びその化合物 ・水銀及びその化合物 ・ふっ素及びその化合物 ・排水基準 ・ダイオキシン類	1回/月 4回/年	一時貯留場所 一時貯留場所	
	地下水 ・鉛及びその化合物 ・水銀及びその化合物 ・ふっ素及びその化合物 ・地下水位	1回/月	Br1、Br2、Br3 Br4、Br5、Br6 Br7、Br8、Br9 Br10、Br11	
施工後	地表水 ・農業用水項目	2回/年	W1、W2 W3、W4	施工後 2年間 変動を監視
	地下水 ・鉛及びその化合物 ・水銀及びその化合物 ・ふっ素及びその化合物	4回/年	Br1、Br2、Br3 Br4、Br5、Br6 Br7、Br8、Br9 Br10、Br11	



※: Br9、10、11の観測孔は来年度設置予定
Br11は、雨季の地下水流向調査実施後に位置を検討